

## 1. 内外政

- ・7日、シェフチューク「沿ドニエストル共和国大統領」は、モスクワを訪問し、ロゴジン露副首相と会談、社会・経済問題につき議論。
- ・7日、ティモフティ大統領は、ポロシェンコ・ウクライナ大統領の就任式に出席。バイデン米副大統領等と会談し、地域情勢等を議論。
- ・9日、レアンカ首相は、キシナウにて、カラーシン露外務次官と会談、モルドバの欧州統合路線は、CIS諸国との協力関係と矛盾しない旨発言。
- ・10日、カラーシン露外務次官は、ティラスポリにて、シェフチューク「沿ドニエストル共和国大統領」と会談、ロシアは積極的に同「共和国」を支援していく旨発言。
- ・10日、欧州評議会閣僚委員会は、ロシアに対し、沿ドニエストル地域のモルドバ系学校に対する圧力をやめるよう要求。
- ・11日、ラザル副首相兼経済相は、モルドバのEUへの政治的統合は、経済的統合が成功するか否かにかかっている旨発言。
- ・11日、フォルムザル・ガガウズ自治区首長は、ガガウズ人はNATO加盟反対や連合協定署名により生じる種々の不利益について主張しているだけで、分離主義者ではない旨発言。
- ・11日、ウクライナの武装集団「ルハンスク人民共和国」は、「沿ドニエストル共和国」等へ「自国」の「独立」承認を要請。
- ・12日、ティモフティ大統領は、バローゾ欧州委員長と会談し、東方パートナーシップにもとづいた協力がモルドバの改革を促し、国家の新たな展望を開いた旨発言。バローゾ欧

州委員長は、モルドバの27日の連合協定署名決定を歓迎しつつ、右の署名がモルドバとロシアをはじめとするその他の国との関係を損なうものであってはならない旨発言。両者は、査証免除に向けた改革、エネルギー分野改革、バイオマス利用プロジェクト支援、村落発展支援に関する4つの協定に署名。

- ・12日、トロエンコ国防相は、モルドバの軍事中立を見直し、NATO加盟を検討する時期が来ている旨発言。

## 2. 経済

- ・10日、バイデン米副大統領は米国政府が欧州統合促進のために、モルドバへ800万米ドルを追加提供する予定である、本年、米国がモルドバへ提供する財政支援の総額は3,100万米ドルに達するだろう旨発言。
- ・13日、EBRDとEIBはモルドバの北部地区での水供給システムの改良のため、モルドバへの2,000万ユーロを提供する予定である、また、欧州委員会はこのプロジェクトのための1,000万ユーロの無償資金を提供する予定である旨発表。

## 3. 防衛

- ・11日、トロエンコ国防相は、バトソン駐モルドバ英国大使と会談、二国間軍事協力について議論。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」（ロシア語読み）を暫定的に「キシナウ」（モルドバ語読み）と表記しています。  
(了)